



クローズアップ
CLOSE UP

北斎漫画と落語の融合

2月4日に昌賢学園まえばしホールで「北斎漫画で笑おう!」を開催。本市出身で落語家の三遊亭竜楽さんが、北斎漫画を用いた語りの披露や観覧者を交えた遊びを実施。会場は笑いに包まれました。また、北斎漫画のコレクター・浦上満さんの講演や作品の展示も実施しました。



雪と氷の世界で楽しむ

赤城大沼周辺でAKAGI WHITE WEEK 2024を1月27日から2月4日まで開催しました。2月3日には、雪中サウナ体験や寒さに耐える我慢大会「THE 赤城山がまん」などを開催。参加者は氷に座って氷菓の早食い競争や氷しがみつき競争などに挑戦しました。



次の世代に夢を与える

月田小で、1月30日にロサンゼルス・ドジャースの大谷翔平さんからの寄贈グローブとメッセージを紹介。グローブを見た子どもたちは、歓声を上げ、代表者によるキャッチボールを実施しました。月田小では曜日ごとに使える学年を設定し、子どもたちが野球に親しんでいます。

育英大レスリング部監督として、2人の選手をパリオリンピック以内定へ導いた柳川さん。「レスリングは小学生の時に始めました。高校はアメリカに留学したため、レスリングはシーズン制の部活動でやった程度でしたが、帰国後は体育大でオリンピック出場を目指しました」

大学卒業後は、元々志望していた教員を志し、大学院の教育学研究科へ進学した。

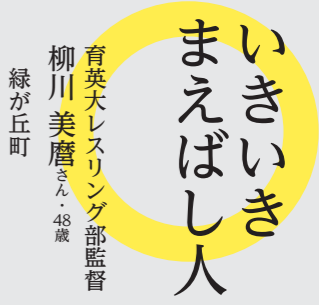
「そこから、研究を深めるため同大学院の医学系研究科へ進学して、「レスリングの減量と脂肪細胞から分泌されるホルモン細胞について」といったテーマで、6・7年研究をしました」

医学博士となった後は、育英短期大で念願の教員を務めた。

そこで育英大開学に携わったことをきっかけにレスリング部を設置。開設6年目を迎える。指導については、今は新しい時代だと話す柳川さん。

「教員と学生の関係は縦ではなく、互いに話し合いながら進めるのが今の教育。学生が聞きやすい・話しやすい環境作りを心掛けています。ただ、自分たちは勝つことが目標。技術や知識だけでは勝ちきれない。練習量や根性も必ず必要です。そのためにも人間関係の構築は大切。朝食は毎日一緒に取って、ほとんど毎日一緒にいて見ているからこそ言えることを言っています」

豊富な知識を武器に、選手とともに夢の舞台へ挑んでいる。



学生と互いに話し合い夢の舞台へ



【Vol.6】スローフード
◎ 観光政策課
☎ 027-257-0675

スローシティの取り組みなどを紹介するこのコーナー。今回はスローシティの始まり、スローフードについて紹介します。

1986年、ファストフードに対してイタリアの小さなまちで起こった運動から始まったスローフード。その思いは、自然の恵を享受しながら地域の食を守り育み、心豊かに暮らしていくという考えに根差しています。

本市でも地域の伝統的な食を大切にす文化があり、スローフードの理念を共有しています。例えば、宮城地域の献穀祭が挙げられます。これは、新嘗祭に供えるため、宮城地域で育てた粟を皇室に献上する行事。毎年、選ばれた齋耕者（献上品を育てる人）が、自分の土地の一角に、前年から引き継がれた種をまき、地元の経験者に見守られながら粟を育てます。齋耕者



アンケートはこちら

は誇りを持って粟を献上し、この役割を次代へと引き継ぎます。また、家庭に置き換えれば、おばあちゃんから受け継いだ料理があるように、各家庭で代々伝わるレシピも身近なスローフードといえます。

伝統的な食文化を守ることや地産地消を心掛けること、食材を余すことなく調理することなど、私たちができるスローフードの取り組みは数多くあります。

本市では、スローシティが市民にどの程度認知されているかを調査しています。二次元コードからスローシティ認知度アンケートに協力をお願いします。



粟の献穀拔穂祭